

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/001716

International filing date: 04 February 2005 (04.02.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-339324
Filing date: 24 November 2004 (24.11.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 17 March 2005 (17.03.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse.

21.2.2005

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 1 1 月 2 4 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 3 3 9 3 2 4
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 3 3 9 3 2 4]

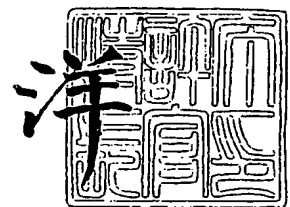
出 願 人 株式会社メジャー通信
Applicant(s):



2 0 0 5 年 2 月 1 5 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



出証番号 出証特 2 0 0 5 - 3 0 1 0 6 4 7

【書類名】 特許願
【整理番号】 04P110MJ03
【提出日】 平成16年11月24日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 B67D 1/07
【発明者】
【住所又は居所】 東京都千代田区麹町四丁目1番3号セリエビル5階 株式会社メ
ジャー通信内
【氏名】 雲野 哲明
【特許出願人】
【識別番号】 501435129
【氏名又は名称】 株式会社メジャー通信
【代理人】
【識別番号】 100067736
【弁理士】
【氏名又は名称】 小池 晃
【選任した代理人】
【識別番号】 100086335
【弁理士】
【氏名又は名称】 田村 榮一
【選任した代理人】
【識別番号】 100096677
【弁理士】
【氏名又は名称】 伊賀 誠司
【先の出願に基づく優先権主張】
【出願番号】 特願2004- 28607
【出願日】 平成16年 2月 4日
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 019530
【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 0116644

【書類名】特許請求の範囲

【請求項 1】

蓋体により開口部が封止され圧縮ガスが充填されたボンベと、上記蓋体に形成された穿孔に突き立てられることにより上記蓋体を閉塞する尖鋭体と、一端に上記ボンベの蓋体と対向して上記尖鋭体を保持し上記蓋体と接離可能に配設された保持体と、上記保持体を上記ボンベの蓋体側に付勢する付勢部材と、上記保持体を上記蓋体と離間する方向に操作して上記尖鋭体を上記穿孔より引き抜き上記ボンベを開放する操作部材と、上記ボンベ及び保持体を収納するとともに、上記蓋体の穿孔より噴出した上記圧縮ガスを外方へ導くガス流路が設けられたハウジングとを有するガス噴出装置。

【請求項 2】

上記保持体の他端側に当接して上記ボンベの蓋体から離間する方向への移動を規制する規制部材を有し、該規制部材は、上記操作部材による上記ボンベの開閉を規制することにより上記圧縮ガスの噴出量を規制することを特徴とする請求項 1 記載のガス噴出装置。

【請求項 3】

上記蓋体は、上記尖鋭体が突き立てられることにより上記穿孔が形成されることを特徴とする請求項 1 記載のガス噴出装置。

【請求項 4】

上記ガス流路には、上記圧縮ガスを吹き出す吹き出しノズルが設けられることを特徴とする請求項 1 記載のガス噴出装置。

【請求項 5】

上記付勢部材は一端が上記保持体と当接された捻りコイルバネであり、

上記ハウジングは上記捻りコイルバネの他端を支持する天板が形成されていることを特徴とする請求項 1 記載のガス噴出装置。

【請求項 6】

上記操作部材は、長手方向の一部に設けられた支点を境とした一端側で上記保持体と当接して上記保持体を上記蓋体と離間する方向に操作し上記ボンベを開放する操作レバーと、該操作レバーの上記支点を境とした他端側と係合し押圧操作されることにより上記操作レバーを上記保持体を上記蓋体と離間する方向へ回動させる押圧部材からなり、

上記ハウジングには、上記押圧部材を押圧操作する押圧鉤が形成されているキャップ部材が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載のガス噴出装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】ガス噴出装置

【技術分野】

【0001】

本発明は、ガスボンベ内に充填された圧縮ガスをを噴出するガス噴出装置に関する。

【背景技術】

【0002】

従来より精密機器や写真のネガ等に付着した塵埃を吹き飛ばすダストブローアが広く用いられている。これらダストブローア製品は一般に、スプレー缶内に噴射材として液化ガスが高压下で充填されて形成されている。スプレー缶の頂部にはバルブを開閉操作する噴出弁を兼ねたノズルが形成され、ノズルの一端には細部にガスを噴出させるための吹き出し用チューブが接続されている。そして噴出弁を押すと、液化ガスが缶内で気化しその際の圧力でノズルに接続されたチューブより噴出される。

【0003】

目的成分の噴射材として用いられる液化ガスとしては、代替フロンとしてHFC（ハイドロフルオロカーボン）134aやHFC152a等が広く用いられ、スプレー缶内に於いて高压下で液状に保存されている。

【0004】

【特許文献1】特開2003-146393号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかし、このHFCは、大気中に放出されると温室効果を招くことから、気候変動枠組条約の目的を達成するために採択された京都議定書においても排出量が規制される温室効果ガスとして挙げられ、また産業界全体でも排出削減が推進されている。例えば、HFC134aの温室効果は二酸化炭素の1300倍であり、HFC152aでも二酸化炭素の1300倍の温室効果があることから、HFC製品の使用から他の圧縮ガスを用いた製品へ切り換えていくことが望まれている。

【0006】

また、スプレー缶内に液化ガスを充填させるエアゾール缶においては、簡便に圧縮ガスを噴霧することができるが、液化ガスが高压下で充填されているため、圧縮ガスの噴出制御を行うために複雑な機構が必要となる。

【0007】

そこで、本発明は圧縮ガスが充填された小型のガスボンベを用いて圧縮ガスの噴出制御を行うことにより、圧縮ガスの噴出制御を簡易な構成で実現したガス噴出装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上述した課題を解決するために、本発明にかかるガス噴出装置は、蓋体により開口部が封止され圧縮ガスが充填されたボンベと、上記蓋体に形成された穿孔に突き立てられることにより上記蓋体を閉塞する尖鋭体と、一端に上記ボンベの蓋体と対向して上記尖鋭体を保持し上記蓋体と接離可能に配設された保持体と、上記保持体を上記ボンベの蓋体側に付勢する付勢部材と、上記保持体を上記蓋体と離間する方向に操作して上記尖鋭体を上記穿孔より引き抜き上記ボンベを開放する操作部材と、上記ボンベ及び保持体を収納するとともに、上記蓋体の穿孔より噴出した上記圧縮ガスを外方へ導くガス流路が設けられたハウジングとを有するものである。

【0009】

本発明にかかるガス噴出装置においては、特に温室効果を抑制する見地から圧縮ガスとして温室効果を招くおそれがない炭酸ガスを用いる。

【発明の効果】

【0010】

以上のようなガス噴出装置によれば、圧縮ガスが金属筐体からなるポンペ内に充填されると共に圧縮ガスの噴霧が停止されている状態においては、保持体がポンペ側に付勢されて尖鋭体の先端部がポンペの蓋体を閉塞し、圧縮ガスの噴出が防止されている。従って、ガス噴出装置は、尖鋭体を蓋体より抜き差しする簡易な構成で確実に圧縮ガスの噴出制御を行うことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

以下、本発明が適用されたガス噴出装置について、図面を参照しながら詳細に説明する。このガス噴出装置1は、例えば、精密機器の製造、整備や、半導体や写真等のネガを取り扱う際に塵埃を除去するためのダストブローとして用いられるものであり、図1及び図2に示すように、圧縮ガスとして炭酸ガスが充填された炭酸ガスカートリッジポンベ5と、炭酸ガスカートリッジポンベ5の開閉を行う尖鋭体6を保持する保持体7と、保持体7を炭酸ガスカートリッジポンベ5の開口部側に付勢する捻りコイルバネ8と、保持体7を炭酸ガスカートリッジポンベ5の開口部と離間する方向に操作して炭酸ガスを放出させる操作部材9と、炭酸ガスカートリッジポンベ5及び保持体7を収納すると共に炭酸ガスカートリッジポンベ5より噴出した炭酸ガスを外方へ導くガス流路11が設けられたハウジング10とを有する。

【0012】

炭酸ガスカートリッジポンベ5は、略筒状の金属筐体内に液化炭酸ガスが充填されている。また、炭酸ガスカートリッジポンベ5は、金属筐体の一端側に開口部13が形成されている。開口部13は蓋体14で覆われており、金属筐体内の炭酸ガスの噴出を防止している。また、開口部13は、蓋体14が後述する保持体7に保持されている尖鋭体6により穿孔14aが形成されるとともに、尖鋭体6が穿孔14aに突き立てられることにより閉塞される。

【0013】

このような炭酸ガスカートリッジポンベ5は、蓋体14に突き立てられている尖鋭体6が引き上げられることにより、蓋体14の穿孔14aから炭酸ガスが噴出する。また、炭酸ガスカートリッジポンベ5は、尖鋭体6が穿孔14a内に突き立てられることにより開口部13が閉塞され、炭酸ガスの噴出が防止される。

【0014】

尖鋭体6を保持し、炭酸ガスカートリッジポンベ5の開閉を行う保持体7は、図3に示すように、断面略凸字状に形成され、炭酸ガスカートリッジポンベ5の蓋体14に突き立てられる尖鋭体6が挿通、保持される突部15と、保持体7を炭酸ガスカートリッジポンベ5側に付勢する捻りコイルバネ8が係止される係止溝16が形成されたフランジ部17を有する。

【0015】

尖鋭体6を挿通、保持する突部15は、後述するハウジング10に形成されたガイド壁41に摺動自在に支持され、炭酸ガスカートリッジポンベ5と近接又は離間する方向への移動がガイドされている。また保持体7は、後述する操作部材9と当接されることにより捻りコイルバネ8の付勢力に対抗して突部15が炭酸ガスカートリッジポンベ5より離間する方向へ操作可能とされている。

【0016】

炭酸ガスカートリッジポンベ5の蓋体14を閉塞する尖鋭体6は、先端部6aが保持体7の底面部7aより突出され、炭酸ガスカートリッジポンベ5の蓋体14に突き立てられている。これにより、尖鋭体6は、蓋体14に穿孔14aを開けるとともに、この穿孔14aを閉塞することにより炭酸ガスカートリッジポンベ5内に充填された炭酸ガスの流出を防止する。

【0017】

保持体7の炭酸ガスカートリッジポンベ5と対向する端部に形成されているフランジ部

17は、保持体7を付勢する圧縮バネ等の捻りコイルバネ8に係合される。この捻りコイルバネ8は、保持体7に係合された状態で保持体7が後述するハウジング10内に収納されることにより、一端をハウジング10の内壁に当接され、他端をフランジ部17の係止溝16に係止される。これにより、捻りコイルバネ8は、保持体7を炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14側に付勢している。

【0018】

以上のような構成を有する保持体7は、ハウジング10に収納されると、炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14と尖鋭体6が形成された底面部7aとが対向される。そして、保持体7は、捻りコイルバネ8により炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢されるため、尖鋭体6が蓋体14を穿孔するとともに尖端部6aが穿孔14aに突き立てられ炭酸ガスカートリッジボンベ5を閉塞する。

【0019】

そして、保持体7は、操作部材9により、捻りコイルバネ8の付勢力に対抗して炭酸ガスカートリッジボンベ5と反対側に移動されると、蓋体14より尖鋭体6の尖端部6aが引き上げられるため、炭酸ガスを噴出させることができる。噴出した炭酸ガスは、ハウジング10のガス流路11を流れて外方に噴出される。また、保持体7は、操作部材9の付勢力が解かれると、捻りコイルバネ8の付勢力により炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢され、尖鋭体6の尖端部6aが炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14に形成された穿孔14a内に突き立てられ、炭酸ガスの噴出を止める。

【0020】

なお、保持体7を炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢する捻りコイルバネ8は、蓋体14の穿孔14aより炭酸ガスカートリッジボンベ5内に挿通された尖鋭体6の尖端部6aがボンベ内に充填された炭酸ガスにより押圧される圧力よりも大きな圧力で、保持体7を付勢する。すなわち、保持体7に保持された尖鋭体6は、蓋体14の穿孔14aより炭酸ガスカートリッジボンベ5内に突き立てられたときでも、ボンベ内のガス圧力により穿孔14aより押し出されることはない。したがって、ガス噴出装置1は、操作部材9により保持体7が操作される前において、炭酸ガスカートリッジボンベ5内に充填された炭酸ガスの漏出が防止されている。

【0021】

保持体7を操作することにより炭酸ガスカートリッジボンベ5内の炭酸ガスを噴出させる操作部材9は、保持体7の突部15と連結されハウジング10に回動可能に支持されるレバー部材20と、レバー部材20の一端20aを押圧操作する操作鉤21とを有する。

【0022】

レバー部材20は、図2及び図4に示すように、板状体の他端20bをハウジング10のガイド壁41の形状に応じて略円弧状に切り欠かれた切欠部22が形成されている。この切欠部22の相対向する側縁部22a、22aは、上記保持体7のフランジ部17の下方に位置され、レバー部材20の他端20bが上方に回動されると、フランジ部17より突出された押下突起30に当設し、保持体7を上方に押し上げる。また、レバー部材20の一对の外側面20c、20cには、それぞれハウジング10に形成された回動支持部42に支持される回動突部24が突設されている。回動突部24は円柱状の突起からなり、後述する回動支持部42の凹部に回動自在に支持されている。さらに、レバー部材20は、一端側の主面部に操作ボタン21の一端に係合される係合孔25が穿設されている。

【0023】

このレバー部材20の係合孔25と係合される操作ボタン21は、ハウジング10の上面部に設けられユーザにより押圧操作される操作部27と、ハウジング10内を上下方向に移動可能に支持されるとともに一端28aをレバー部材20の係合孔25に係合された押圧軸28とを有する。押圧軸28は、他端28bがハウジング10の上面部に突出されて操作部27と連結されている。また、押圧軸28は、一端28aに係合突起29が形成され、この係合突起29が上述したレバー部材20の主面部に穿設された係合孔25に係合されることによりレバー部材20と連結されている。

【0024】

このような操作部材 9 は、レバー部材 20 の回動突部 24 よりも他端 20 b 側が、捻りコイルバネ 8 によって常時炭酸ガスカートリッジボンベ 5 側に付勢されている保持体 7 のフランジ部 17 に突設された押下突起 30 に押下されることにより、図 3 に示すように、回動突部 24 を支点に他端 20 b が下方に回動され、また、一端 20 a 側が上方に回動されている。したがって、レバー部材 20 の一端 20 a 側と係合している操作ボタン 21 は、常時、操作部 27 が上方に押し上げられている。

【0025】

そして、操作部材 9 は、ユーザによって操作部 27 が押し下げられると、押圧軸 28 に押圧されたレバー部材 20 の一端 20 a が回動突部 24 を支点に下方に回動され、また、他端 20 b が上方に回動される。したがって、保持体 7 は、レバー部材 20 の他端 20 b に形成された一对の側縁部 22 a がフランジ部 17 の押下突起 30 に下方より当設するため、捻りコイルバネ 8 の付勢力に対向して上昇され、炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の蓋体 14 より離間される。これにより、保持体 7 に支持されている尖鋭体 6 の尖端部 6 a が炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の蓋体 14 より引き上げられるため、炭酸ガスを噴出させることができる。

【0026】

炭酸ガスカートリッジボンベ 5 及び保持体 7 を収納するハウジング 10 は、ABS 樹脂等の熱可塑性樹脂により、炭酸ガスカートリッジボンベ 5 が収納される下側収納 31 と保持体 7 が収納される上側収納 32 が形成された略筒状体からなる。また、ハウジング 10 は、ユーザによって片手で持って操作できる程度の大きさで形成されている。このハウジング 10 は、上側収納 32 に、炭酸ガスの流路 11 が形成されている。

【0027】

下側収納 31 は、炭酸ガスカートリッジボンベ 5 と略同一の高さ及び径を有し、炭酸ガスカートリッジボンベ 5 をガタつかせることなく収納する。

【0028】

保持体 7 を収納する上側収納 32 は、下側収納 31 と一体又は着脱自在に形成されている。上側収納 32 は、内部に保持体 7 の突部 15 の移動をガイドするガイド壁 41 と、レバー部材 20 の回動突部 24、24 を支持する一对の回動支持部 42、42 と、捻りコイルバネ 8 の一端に係止される係止部 43 とが形成されている。

【0029】

ガイド壁 41 は、上側収納 32 の下面部 32 a より突設され、保持体 7 の突部 15 を摺動自在に支持している。このガイド壁 41 に囲まれ、保持体 7 の突部 15 が挿通される凹部 41 a には、保持体 7 に保持されている尖鋭体 6 が貫通する貫通孔 44 が穿設されている。貫通孔 44 は、予め尖鋭体 6 により炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の蓋体 14 を穿孔する際に、同時に尖鋭体 6 によって下面部 32 a が貫通されることによって形成される。したがって、貫通孔 44 は、尖鋭体 6 の径と同一の径で形成され、また下面部 32 a を滑りがよく、反発性があるポリエチレン等の材料を使用することによって、尖鋭体 6 の移動をガイドするとともに、蓋体 14 の穿孔 14 a から尖鋭体 6 を引き抜いたときにも貫通孔 44 と尖鋭体 6 との間に間隙が形成されることなく炭酸ガスが上側収納 32 内に流れることを防止することができる。

【0030】

回動支持部 42、42 は、上側収納 32 の下面部 32 a より突設され、レバー部材 20 の回動突部 24、24 を回動自在に支持する支持凹部が形成されている。

【0031】

係止部 43 は、上側収納 32 の上面部 32 b に形成され、一端部が保持体 7 のフランジ部 17 に形成された係止溝 16 に係止されている捻りコイルバネ 8 の他端部が当接されている。これにより、保持体 7 は、捻りコイルバネ 8 により炭酸ガスカートリッジボンベ 5 側に付勢される。

【0032】

また、上側収納 32 は、下面側に炭酸ガスカートリッジポンベ 5 の開口部 13 近傍をネジ止めするためのネジ穴 35 が内側に形成されている。これにより炭酸ガスカートリッジポンベ 5 は、ハウジング 10 内に収納されると、ネジ穴 35 に開口部 13 が支持され、ガタつくことなく収まる。

【0033】

また、上側収納 32 には、炭酸ガスカートリッジポンベ 5 より噴出した炭酸ガスを外方に導くガス流路 11 が形成されている。ガス流路 11 は、ハウジング 10 内に収納された炭酸ガスカートリッジポンベ 5 の蓋体 14 と連続され、蓋体 14 の穿孔 14a より噴出した炭酸ガスが流される。また上側収納 32 は、このガス流路 11 を外方に臨ませて炭酸ガスを噴出させる噴出部 36 が突設されている。噴出部 36 は、図 2 に示すように噴出ノズル 37 が着脱可能とされており、噴出ノズル 37 が接続されることにより細部に勢いよく炭酸ガスを噴出することができる。

【0034】

上側収納 32 の上面部 32b には、操作部材 9 の押圧軸 28 が挿通されている挿通孔 47 が設けられている。挿通孔 47 は、押圧軸 28 を支持するとともに上下方向の移動をガイドしている。

【0035】

また、上側収納 32 の上面部 32b には、保持体 7 の上昇を規制することにより尖鋭体 6 の蓋体 14 からの抜き出し量を規制し、炭酸ガスの噴出を制御する規制部材 49 が挿通合されている挿通孔 50 が設けられている。この挿通孔 50 に挿通される規制部材 49 は、上側収納 32 内に挿入され保持体 7 の上面部 7b と当接される軸部 49a と、上側収納 32 の上面部 32b より外方に設けられ、軸部 49a の挿入深さを調節する調節部 49b からなる。また、挿通孔 50 は内周面にネジ溝が切られ、同様にネジ溝が切られている規制部材 49 の軸部 49a が嵌合されている。

【0036】

そして、規制部材 49 は、上側収納 32 の上面部 32b の外部に配設されている調節部 49b を回転させることにより軸部 49a の挿入深さを調節し、軸部 49a の先端と保持体 7 の上面部 7b との当接位置を調節できる。これにより、規制部材 49 は、調節部 49b を回転操作することにより、操作部材 9 によって保持体 7 が上昇されたときにも、規制部材 49 の軸部 49a が保持体 7 の上面部 7b に当接され、保持体 7 の上昇が規制されるため、炭酸ガスの流量を調節することができ、炭酸ガスが必要以上に噴出される事態を防止することができる。

【0037】

次いで、以上のような構成を有するガス噴出装置 1 の実使用時における動作を説明する。使用時においてガス噴出装置 1 は、図 1 に示すように、ハウジング 10 の上側収納 32 に設けられた噴出部 37 に噴出ノズルが結合され、ガス流路 11 と噴出ノズル 37 とが連続される。

【0038】

このとき、図 5 に示すように、ハウジング 10 の下側収納 31 に収納されている炭酸ガスカートリッジポンベ 5 は、保持体 7 が捻りコイルバネ 8 によって下方に付勢されている。これにより、ガス噴出装置 1 は、保持体 7 に保持されている尖鋭体 6 の先端部 6a が蓋体 14 に突き立てられて予め開口されるとともに、この尖鋭体 6 の先端部 6a によって穿孔 14a が閉塞されて炭酸ガスの噴出が防止されている。

【0039】

また、このとき操作部材 9 は、レバー部材 20 が、捻りコイルバネ 8 によって常時炭酸ガスカートリッジポンベ 5 側に付勢されている保持体 7 の押下突起 30 に押下されることにより、図 3 に示すように、回動突部 24 を支点に他端 20b が下方に回動され、また、一端 20a 側が上方に回動されている。したがって、レバー部材 20 の一端 20a 側と係合している操作ボタン 21 は、常時、操作部 27 が上方に押し上げられている。

【0040】

次いで、ユーザによって噴出ノズル 37 の先端に形成された噴出口 37 a を噴出対象に向けてガス噴出装置 1 のハウジング 10 が把持される。そして、ユーザによって操作部材 9 の操作釦 21 が押圧されると、図 6 に示すように、押圧軸 28 の一端 28 a が下方に回転し、この押圧軸 28 と係合するレバー部材 20 の一端 20 a が回転突部 24 を支点に下方に回転され、また、他端 20 b が上方に回転される。したがって、保持体 7 は、レバー部材 20 の他端 20 b に形成された一対の側縁部 22 a がフランジ部 17 の押下突起 30 に下方より当設するため、捻りコイルバネ 8 の付勢力に対向して上昇され、炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の蓋体 14 より離間される。これにより、保持体 7 に支持されている尖鋭体 6 の先端部 6 a が炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の蓋体 14 の穿孔 14 a より引き上げられるため、ボンベ内に圧縮されている炭酸ガスが噴出される。

【0041】

噴出された炭酸ガスは、ハウジング 10 の下側収納 31 に設けられたガス流路 11 を介して、噴出部 36 に装着されている噴出ノズル 37 に流れ、噴出ノズル 37 の噴出口 37 a より噴出する。

【0042】

なお、予め規制部材 49 の調節部 49 b を回転させ、軸部 49 a の挿入深さを調節し、軸部 49 a の先端と保持体 7 の上面部 7 b との当接位置を調節しておくことにより、操作部材 9 によって保持体 7 が上昇されたときにも、規制部材 49 の軸部 49 a が保持体 7 の上面部 7 b に当接され、保持体 7 の上昇が規制されるため、炭酸ガスの流量を調整することができ、炭酸ガスが必要以上に噴出される事態を防止することができる。

【0043】

ユーザによる操作部材 9 の操作釦 21 の押圧が解除されると、保持体 7 は、捻りコイルバネ 8 の付勢力により炭酸ガスカートリッジボンベ 5 側に付勢される。したがって、保持体 7 に保持されている尖鋭体 6 は先端部 6 a が炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の蓋体 14 の穿孔 14 a に突き立てられ、炭酸ガスカートリッジボンベ 5 を閉塞する。これにより、噴出ノズル 37 からの炭酸ガスの噴出が停止される。

【0044】

また、レバー部材 20 は、他端 20 b が炭酸ガスカートリッジボンベ 5 側に付勢された保持体 7 の押下突起 30 に押圧され、回転突部 24 を支点に一端 20 a が上方に回転される。したがって、レバー部材 20 の一端 20 a と係合している操作釦 21 は、押圧軸 28 が上方に移動し、操作部 27 が上側収納 32 の上面部 32 b の上方に押し上げられる。

【0045】

このように、ガス噴出装置 1 は、炭酸ガスが金属筐体からなる炭酸ガスカートリッジボンベ 5 内に充填されると共に炭酸ガスの噴霧が停止されている状態においては、保持体 7 が炭酸ガスカートリッジボンベ 5 側に付勢されて尖鋭体 6 の先端部 6 a が炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の蓋体 14 を閉塞し、炭酸ガスの噴出が防止されている。従って、ガス噴出装置 1 は、尖鋭体 6 を蓋体 14 より抜き差しする簡易な構成で確実に炭酸ガスの噴出制御を行うことができる。

【0046】

また、本発明が適用されたガス噴出装置は、以下のような構成を備えていてもよい。なお、以下に説明するガス噴出装置 100 においては、上述したガス噴出装置 1 に記載した部材と同一の部材については同一の符号を付してその詳細を省略する。

【0047】

このガス噴出装置 100 は、図 7 及び図 8 に示すように、圧縮ガスとして炭酸ガスが充填された炭酸ガスカートリッジボンベ 5 と、炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の開閉を行う尖鋭体 106 を保持する保持体 107 と、保持体 107 を炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の開口部側に付勢する捻りコイルバネ 8 と、保持体 107 を炭酸ガスカートリッジボンベ 5 の開口部と離間する方向に操作して炭酸ガスを放出させる操作部材 109 と、炭酸ガスカートリッジボンベ 5、保持体 107 及び操作部材 109 を収納するとともに炭酸ガスカートリッジボンベ 5 より噴出した炭酸ガスを外方へ導くガス流路 111 が設けられたハウ

ジング 110 とを有する。

【0048】

炭酸ガスカートリッジポンベ 5 は、上述したように金属筐体内に液化炭酸ガスが充填されるとともに蓋体 14 の穿孔 14 a に保持体 107 の尖鋭体 106 が突き立てられることにより開口されるとともに炭酸ガスの噴出が防止されている。

【0049】

尖鋭体 106 を保持し、炭酸ガスカートリッジポンベ 5 の開閉を行う保持体 107 は、図 8 に示すように、炭酸ガスカートリッジポンベ 5 の蓋体 14 に突き立てられる尖鋭体 106 が挿通、保持される突部 115 と、保持体 107 を炭酸ガスカートリッジポンベ 5 側に付勢する捻りコイルバネ 8 が係止される係止溝 116 が形成されたフランジ部 117 と、捻りコイルバネ 8 を挿通する挿通部 118 を有する。

【0050】

尖鋭体 106 を挿通、保持する突部 115 は、後述するハウジング 110 に形成された保持体ガイド壁 141 に摺動自在に支持され、炭酸ガスカートリッジポンベ 5 と近接又は離間する方向への移動がガイドされている。また保持体 107 は、後述する操作部材 109 と当接されることにより捻りコイルバネ 8 の付勢力に対抗して突部 115 が炭酸ガスカートリッジポンベ 5 より離間する方向へ操作可能とされている。

【0051】

炭酸ガスカートリッジポンベ 5 の蓋体 14 を閉塞する尖鋭体 106 は、先端部 106 a が突部 115 の底面部 115 a より突出され、炭酸ガスカートリッジポンベ 5 の蓋体 14 に突き立てられている。これにより、尖鋭体 106 は、蓋体 14 に穿孔 14 a を開けるとともに、この穿孔 14 a を閉塞することにより炭酸ガスカートリッジポンベ 5 内に充填された炭酸ガスの流出を防止する。

【0052】

保持体 107 の炭酸ガスカートリッジポンベ 5 と対向する端部に形成されているフランジ部 117 は、保持体 107 を付勢する圧縮バネ等の捻りコイルバネ 8 が係合される。この捻りコイルバネ 8 は、保持体 107 に係合された状態で保持体 107 が後述するハウジング 110 の上側収納 132 内に収納されることにより、一端をハウジング 110 の天板 145 に当接され、他端をフランジ部 117 の係止溝 116 に係止される。これにより、捻りコイルバネ 8 は、保持体 107 を炭酸ガスカートリッジポンベ 5 の蓋体 14 側に付勢している。

【0053】

また、フランジ部 117 には操作部材 109 のレバー部材 120 と当接される突起部 119 が下方に向けて形成されている。突起部 119 は、レバー部材 120 と当接されることにより、捻りコイルバネ 8 の付勢力をレバー部材 120 へ伝達し、また操作部材 109 によって回転操作されたレバー部材 120 の付勢力を保持体 107 へ伝達する。

【0054】

フランジ部 117 を介して突部 115 と反対側に突設された挿通部 118 は、捻りコイルバネ 8 が挿通されることにより、この捻りコイルバネ 8 を保持体 107 に係合、保持するものである。また挿通部 118 は、先端部 118 a の径が小さく形成されることにより、後述する天板 145 に挿通、係止されるフランジ部 118 b が形成されている。

【0055】

以上のような構成を有する保持体 107 は、ハウジング 110 に収納されると、炭酸ガスカートリッジポンベ 5 の蓋体 14 と尖鋭体 106 が形成された突部 115 の底面部 115 a とが対向される。そして、保持体 107 は、捻りコイルバネ 8 により炭酸ガスカートリッジポンベ 5 側に付勢されるため、尖鋭体 106 が蓋体 14 を穿孔するとともに先端部 106 a が穿孔 14 a に突き立てられ炭酸ガスカートリッジポンベ 5 を閉塞する。

【0056】

そして、保持体 107 は、操作部材 109 により、捻りコイルバネ 8 の付勢力に対抗して炭酸ガスカートリッジポンベ 5 と反対側に移動されると、蓋体 14 より尖鋭体 106 の

先端部106aが引き上げられるため、炭酸ガスを噴出させることができる。噴出した炭酸ガスは、ハウジング110のガス流路111を流れて外方に噴出される。また、保持体107は、操作部材109の付勢力が解かれると、捻りコイルバネ8の付勢力により炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢され、尖鋭体106の先端部106aが炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14に形成された穿孔14a内に突き立てられ、炭酸ガスの噴出を止める。

【0057】

なお、保持体107を炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢する捻りコイルバネ8は、蓋体14の穿孔14aより炭酸ガスカートリッジボンベ5内に挿通された尖鋭体106の先端部106aがボンベ内に充填された炭酸ガスにより押圧される圧力よりも大きな圧力で、保持体107を付勢する。すなわち、保持体107に保持された尖鋭体106は、蓋体14の穿孔14aより炭酸ガスカートリッジボンベ5内に突き立てられたときでも、ボンベ内のガス圧力により穿孔14aより押し出されることはない。したがって、ガス噴出装置100は、操作部材109により保持体107が操作される前において、炭酸ガスカートリッジボンベ5内に充填された炭酸ガスの漏出が防止されている。

【0058】

保持体107を操作することにより炭酸ガスカートリッジボンベ5内の炭酸ガスを噴出させる操作部材109は、保持体107の突部115と係合されハウジング110に回転可能に支持されるレバー部材120と、レバー部材120の一端120aを押圧操作する押圧軸121とを有する。

【0059】

レバー部材120は、図8及び図9に示すように、板状体の他端120bをハウジング110の保持体ガイド壁141の形状に応じて略円弧状に切り欠かれた第1の切欠部122が形成されている。この第1の切欠部122の相対向する側縁部122a、122aは、上記保持体107のフランジ部117の下方に位置され、レバー部材120の他端120bが上方に回転されると、フランジ部117より突出された突起部119に当設し、保持体107を上方に押し上げる。また、レバー部材120の一对の外側面120c、120cには、それぞれハウジング110に形成された支持壁142のスリット部142aに支持される回転突部124が突設されている。回転突部124は円柱状の突起からなり、後述する支持壁142のスリット部142aに回転自在に支持されている。さらに、レバー部材120は、一端120a側の主面部に押圧軸121の一端が係合される第2の切欠部125が穿設されている。第2の切欠部125は、レバー部材120の一端120a側を押圧軸ガイド壁143の形状に応じて略円弧状に切り欠かれて形成されている。そして第2の切欠部125は、押圧軸121が挿通されると共に押圧軸121に張り出し形成された押圧片129に第2の切欠部125の相対向する側縁部125a、125aが押圧され、押圧軸121が押圧操作されると押圧片129に押圧されて一端120aが下方に回転操作される。

【0060】

このレバー部材120の第2の切欠部125と係合される押圧軸121は、ハウジング110の上側収納132上に設けられたキャップ150の噴出釘151を介してユーザにより押圧操作される軸部127と、ハウジング110内を上下方向に移動可能に支持される支持片128と、レバー部材120の一端120aに当接されてレバー部材120を押圧操作する押圧片129とを有する。軸部127は、上端がキャップ150の噴出釘151と当接されるとともに、下端部がハウジング110に形成された押圧軸ガイド壁143に挿通され押圧軸121の長手方向の移動がガイドされている。また、支持片128は、断面略T字状の片が押圧軸121の長手方向の略中間部より長手方向に沿って突出されて形成されている。この支持片128は、ハウジング110に押圧軸121の移動方向に沿って立設されたガイドレール144が移動可能に係合され、このガイドレール144によっても押圧軸121の移動がガイドされる。また、押圧片129は、軸部127の略中間部に長手方向に沿って上記レバー部材120の側縁部125a、125aと当接可能に軸

部127を挟んで逆向きに突出して形成されている。この押圧片129は、押圧軸121が押圧操作されることによりレバー部材120の側縁部125a、125aと当接してレバー部材120の一端120aを下方に回動させる。

【0061】

このような操作部材109は、レバー部材120の回動突部124よりも他端120b側が、捻りコイルバネ8によって常時炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢されている保持体107のフランジ部117に突設された突起部119に押下されることにより、回動突部124を支点に他端120bが下方に回動され、また、一端120a側が上方に回動されている。したがって、押圧軸121は、押圧片129がレバー部材120の一端120a側に設けられた側縁部125a、125aに押圧され、常時、上方に押し上げられている。

【0062】

そして、操作部材109は、ユーザによってキャップ150の噴出釦151が押し下げられると、噴出釦151によって押圧軸121の軸部127が下方に押圧されるため、軸部127の下端部が押圧軸ガイド壁143の凹部143aを挿通し、また支持片128がガイドレール144にガイドされて下方に移動するとともに、押圧片129がレバー部材120の側縁部125a、125aを下方に押圧する。これによりレバー部材120の一端120aが回動突部124を支点に下方に回動され、また、他端120bが上方に回動される。したがって、保持体107は、レバー部材120の他端120bに形成された一对の側縁部122aがフランジ部117の突起部119に下方より当設するため、捻りコイルバネ8の付勢力に対向して上昇され、炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14より離間される。これにより、保持体107に支持されている尖鋭体106の尖端部106aが炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14より引き上げられるため、炭酸ガスを噴出させることができる。

【0063】

炭酸ガスカートリッジボンベ5、保持体107及び操作部材109を収納するハウジング110は、ABS樹脂等の熱可塑性樹脂により、炭酸ガスカートリッジボンベ5が収納される下側収納131と保持体107が収納される上側収納132が形成された略筒状体からなる。また、ハウジング110は、ユーザによって片手で持って操作できる程度の大きさで形成されている。このハウジング110は、上側収納132に、炭酸ガスの流路111が形成されている。

【0064】

下側収納131は、炭酸ガスカートリッジボンベ5と略同一の高さ及び径を有し、炭酸ガスカートリッジボンベ5をガタつかせることなく収納する。

【0065】

保持体107及び操作部材109を収納する上側収納132は、下側収納131と一体又は着脱自在に形成されている。上側収納132は、下面部132aに保持体107の突部115の移動をガイドする保持体ガイド壁141と、レバー部材120の回動突部124、124を支持する一对の支持壁142、142と、押圧軸121の移動をガイドする押圧軸ガイド壁143と、押圧軸121の支持片128と係合するガイドレール144、144と、支持壁142、142の上端部に配設され、捻りコイルバネ8の一端に係止される天板145とを有する。そして、上側収納132は、キャップ150が下面部132a上に配設されることによって被覆される。

【0066】

保持体ガイド壁141は、上側収納132の下面部132aの上面側より突設され、保持体107の突部115を摺動自在に支持している。この保持体ガイド壁141に囲まれ、保持体107の突部115が挿通される凹部141aには、保持体107に保持されている尖鋭体106が貫通する貫通孔146が穿設されている。貫通孔146は、予め尖鋭体106により炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14を穿孔する際に、同時に尖鋭体106によって下面部132aが貫通されることによって形成される。したがって、貫通

孔146は、尖鋭体106の経と同一の経で形成され、また下面部132aを滑りがよく、反発性があるポリエチレン等の材料を使用することによって、尖鋭体106の移動をガイドするとともに、蓋体14の穿孔14aから尖鋭体106を引き抜いたときにも貫通孔146と尖鋭体106との間に間隙が形成されることなく炭酸ガスが上側収納132内に流れることを防止することができる。

【0067】

支持壁142、142は、上側収納132の下面部132aの上面側より突設され、レバー部材120の回動突部124、124を回動自在に支持するスリット部142aが形成されている。スリット部142aは、支持壁142、142の上側面が開放され、この開放端よりレバー部材120の回動突部124、124が挿入される。また、支持壁142、142は、上側面に天板145に係合する係合突部142bが複数突設されている。

【0068】

押圧軸ガイド壁143は、上側収納132の下面部132aの上面側に形成され、押圧軸121の軸部127を摺動自在に支持することにより押圧軸121の移動をガイドするものである。押圧軸ガイド壁143は、押圧軸121の軸部127の径に応じた略円形の凹部143aが形成され、この凹部143aを軸部127が摺動することにより押圧軸121の移動をガイドする。

【0069】

ガイドレール144、144は、上側収納132の下面部132aの上面側より突設され、断面略L字状に形成されている。ガイドレール144、144は、このL字状の一边を互いに向かい合わせることにより長手方向にスリットを備え開放側を押圧軸121と反対方向に向けた略コ字状に配置され、このスリット部分に押圧軸121の断面略T字状に形成された支持片128に係合することにより、押圧軸121を摺動自在に支持する。

【0070】

天板145は、支持壁142、142の上側面に突設された複数の係合突部142bが挿通される挿通孔145aが形成されて、この挿通孔145aに係合突部142bが挿通されることにより支持壁142、142に支持されている。この天板部145は、一端部が保持体107のフランジ部117に形成された係止溝116に係止されている捻りコイルバネ8の他端部が当接される。これにより、保持体107は、捻りコイルバネ8により炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢される。また天板145は、保持体106の挿通部118の先端部118aが挿通されるとともに、挿通部118のフランジ部118bに係止される開口部145bが形成されている。

【0071】

また、上側収納132は、下面部132aの下面側に、炭酸ガスカートリッジボンベ5の開口部13近傍をネジ止めするための係止孔135が内側に形成されている。係止孔135は、ネジ溝が形成されており、このネジ溝に炭酸ガスカートリッジボンベ5の開口部13が螺合される。これにより炭酸ガスカートリッジボンベ5は、ハウジング110内に収納されると、係止孔135に開口部13が支持され、ガタつくことなく収まる。このとき、炭酸ガスカートリッジボンベ5は、蓋体14と上側収納132の下面部132aとの間に、炭酸ガスをガス流路111に導くクリアランスが形成される。

【0072】

また、上側収納132には、炭酸ガスカートリッジボンベ5より噴出した炭酸ガスを外方に導くガス流路111が形成されている。ガス流路111は、上側収納132の下面部132aより外方に向けて導管147が延設され、この導管の一端が係止孔135内に臨まされており、係止孔135に螺合された炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14と所定のクリアランスを隔てて連続されている。また、ガス流路111は、導管147の他端が外方に臨まされることにより、蓋体14の穿孔14aより噴出した炭酸ガスを噴出可能とされている。

【0073】

上側収納132上に設けられるキャップ150は、一端が開放された中空円筒状のケー

スであり、上側収納132に取り付けられることにより、下面部132aに配設された保持体107、操作部材109等の部材を収納し、また、ガス流路111が形成された導管147の先端を外方に臨ませる。

【0074】

キャップ150は、閉塞された上面部150aに押圧軸121を操作する噴出鉤151が形成され、また外周部に導管147の先端部が挿通される切欠部152が形成されている。キャップ150の上面部150aには、噴出鉤151が配設される開口部153が形成されている。開口部153は、上面部150aを矩形状に切り欠き形成されることにより、一端側を上面部150aの外周部に臨んで形成されている。この開口部153に設けられた噴出鉤151は、開口部153の閉塞端側に形成された図示しないヒンジ部を介して回動自在にキャップ150と接続されている。噴出鉤151は、押圧軸121の軸部127の一端が当接され、ユーザによって押圧操作されることにより押圧軸121を下方に移動させる。また、噴出鉤151は、レバー部材120を介して捻りコイルバネ8の付勢力を受けた押圧軸121によって上方に押し上げられている。

【0075】

切欠部152は、キャップ150の外周の一部を略円弧状に切り欠くことにより、下端をキャップ150の開放端に臨ませて形成されている。そして切欠部152は、キャップ150が上側収納132上からハウジング110に装着されることにより、開放端側からガス流路111の導管147の先端部が係合する。

【0076】

かかるガス噴出装置100は、図10及び図11に示すように、上側収納132に炭酸ガスカートリッジボンベ5が装着されると共に下側収納131に取り付けられ、また、保持体ガイド壁141、支持壁142、142、押圧軸ガイド壁143、ガイドレール144、144、天板145及び導管147が設けられた下面部132a上に保持体106及び操作部材109が組み付けられた後、キャップ150が上側収納132を覆うようにハウジング110に装着されることにより組み立てられる。

【0077】

なお、ガス噴出装置100は、保持体106及び操作部材109が組み付けられた状態で炭酸ガスカートリッジボンベ5の開閉動作の確認を行うことができる。すなわち、ガス噴出装置100は、支持壁142、142に取り付けられた天板145によって保持体106及び捻りコイルバネ8に係止することによりキャップ150の装着前に動作確認を行うことができるため、保持体及び捻りコイルバネをキャップによって係止してキャップをした後に炭酸ガスカートリッジボンベの開閉動作確認を行う場合に比して、内部構造の不具合等を確認めるために逐一キャップ150を取り外す手間を省くことができる。

【0078】

次いで、以上のような構成を有するガス噴出装置100の実使用時における動作を説明する。使用時においてガス噴出装置100は、図7に示すように、ハウジング110の上側収納132に設けられた導管147に噴出ノズル156が結合され、ガス流路111と噴出ノズル156とが連続される。

【0079】

このとき、ハウジング110の下側収納131に収納されている炭酸ガスカートリッジボンベ5は、保持体107が捻りコイルバネ8によって下方に付勢されている。これにより、噴出装置100は、保持体107に保持されている尖鋭体106の先端部106aが蓋体14に突き立てられて予め開口されるとともに、この尖鋭体106の先端部106aによって穿孔14aが閉塞されて炭酸ガスの噴出が防止されている。

【0080】

また、このとき操作部材109は、レバー部材120が、捻りコイルバネ8によって常時炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢されている保持体107の突起部119に押下されることにより、回動突部124を支点に他端120bが下方に回動され、また、一端120a側が上方に回動されている。したがって、レバー部材120の側縁部125aと

押圧片129に係合している押圧軸121は、常時、軸部127が上方に押し上げられている。

【0081】

次いで、ユーザによって噴出ノズル156の先端に形成された噴出口156aを噴出対象に向けてガス噴出装置100のハウジング110が把持される。そして、ユーザによってキャップ150の噴出鉤151が押圧されると、押圧軸121の押圧片129が下方に移動し、この押圧片129に係合するレバー部材120の一端120aが回動突部124を支点に下方に回動され、また、他端120bが上方に回動される。したがって、保持体107は、レバー部材120の他端120bに形成された一对の側縁部122aがフランジ部117の突起部119に下方より当設するため、捻りコイルバネ8の付勢力に対向して上昇され、炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14より離間される。これにより、保持体107に支持されている尖鋭体106の尖端部106aが炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14の穿孔14aより引き上げられるため、ボンベ内に圧縮されている炭酸ガスが噴出される。

【0082】

噴出された炭酸ガスは、ハウジング110の上側収納132に設けられたガス流路111を介して、導管147に装着されている噴出ノズル156に流れ、噴出ノズル156の噴出口156aより噴出する。

【0083】

ユーザによる操作部材109の噴出鉤151の押圧が解除されると、保持体107は、捻りコイルバネ8の付勢力により炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢される。したがって、保持体107に保持されている尖鋭体106は尖端部106aが炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14の穿孔14aに突き立てられ、炭酸ガスカートリッジボンベ5を閉塞する。これにより、噴出ノズル157からの炭酸ガスの噴出が停止される。

【0084】

また、レバー部材120は、他端120bが炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢された保持体107の突起部119に押圧され、回動突部124を支点に一端120a側が上方に回動される。したがって、レバー部材120の一端120aと係合している押圧軸121は、軸部127が上方に移動し、軸部127に当接されているキャップ150の噴出鉤151も上面部150a側に押し上げられる。

【0085】

このように、ガス噴出装置100は、炭酸ガスが金属筐体からなる炭酸ガスカートリッジボンベ5内に充填されると共に炭酸ガスの噴霧が停止されている状態においては、保持体107が炭酸ガスカートリッジボンベ5側に付勢されて尖鋭体106の尖端部106aが炭酸ガスカートリッジボンベ5の蓋体14を閉塞し、炭酸ガスの噴出が防止されている。従って、ガス噴出装置100は、尖鋭体106を蓋体14より抜き差しする簡易な構成で確実に炭酸ガスの噴出制御を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【0086】

- 【図1】 本発明が適用されたガス噴出装置を示す外観斜視図である。
- 【図2】 本発明が適用されたガス噴出装置の分解斜視図である。
- 【図3】 本発明が適用されたガス噴出装置の断面図である。
- 【図4】 本発明が適用されたガス噴出装置の上面からみた断面図である。
- 【図5】 ガスの噴出が停止された状態のガス噴出装置の内部を示す斜視図である。
- 【図6】 ガスが噴出された状態のガス噴出装置の内部を示す斜視図である。
- 【図7】 本発明が適用された他のガス噴出装置を示す外観斜視図である。
- 【図8】 本発明が適用された他のガス噴出装置を示す分解斜視図である。
- 【図9】 本発明が適用された他のガス噴出装置に用いるレバー部材を示す図である。
- 【図10】 本発明が適用された他のガス噴出装置の組み立て方法を説明する斜視図である。

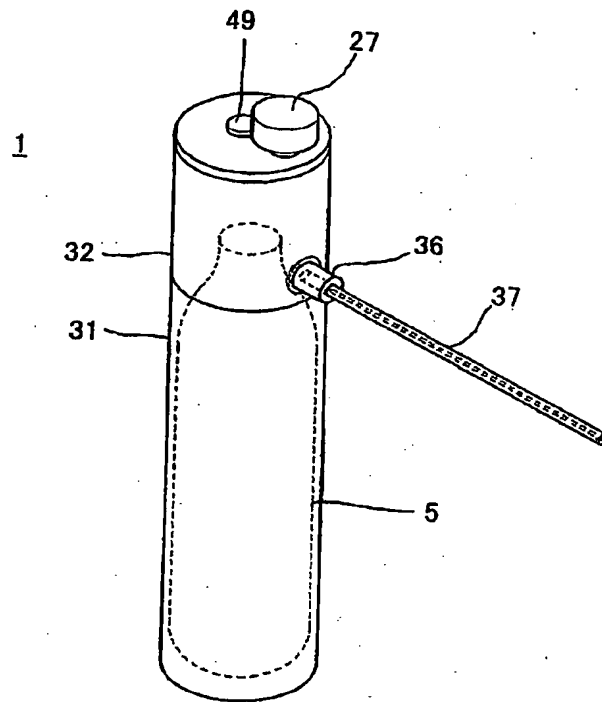
【図 11】本発明が適用された他のガス噴出装置の組み立て方法を説明する斜視図である。

【符号の説明】

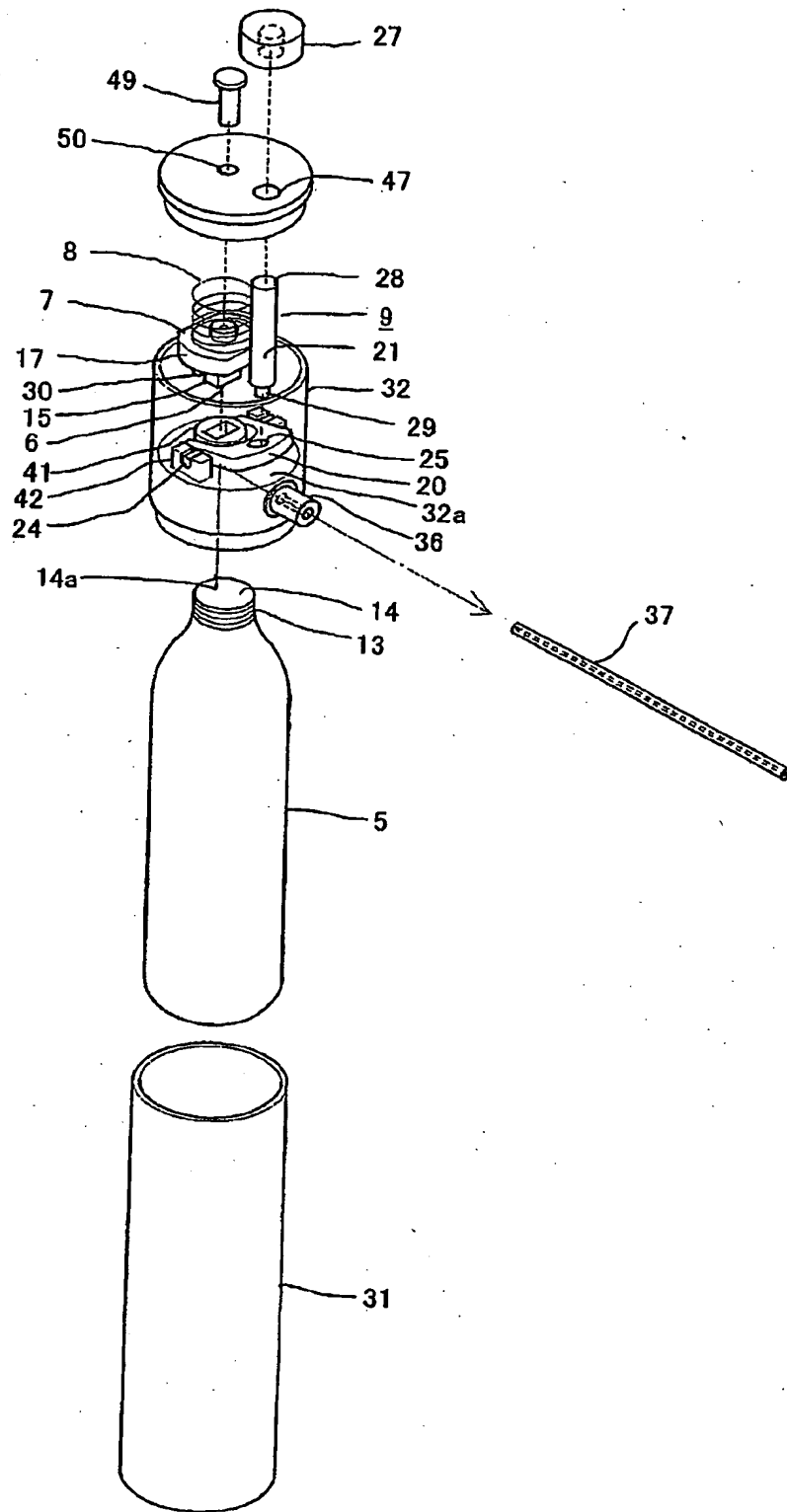
【0087】

1 ガス噴出装置、5 炭酸ガスカートリッジポンペ、6 尖鋭体、7 保持体、8 付勢部材、9 操作部材、10 ハウジング、11 ガス流路、13 開口部、14 蓋体、20 レバー部材、21 操作鉤、31 下側収納、32 上側収納、37 噴出ノズル、49 規制部材

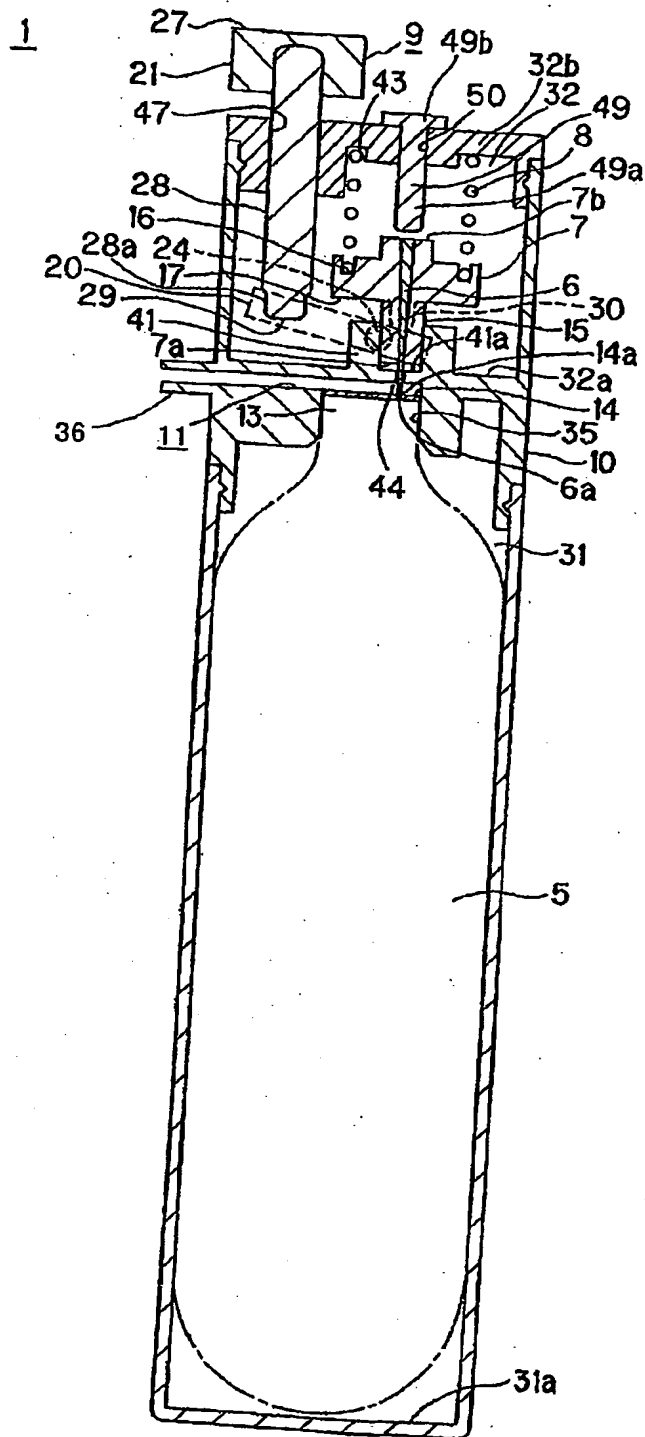
【書類名】 図面
【図1】



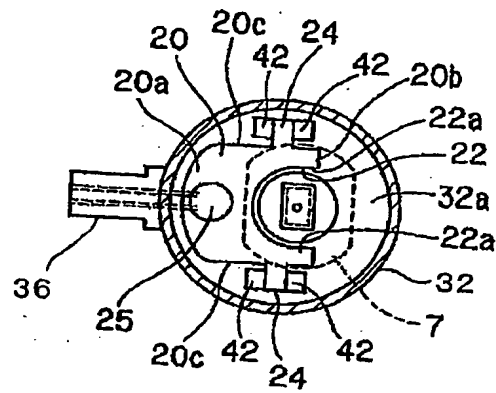
【図 2】



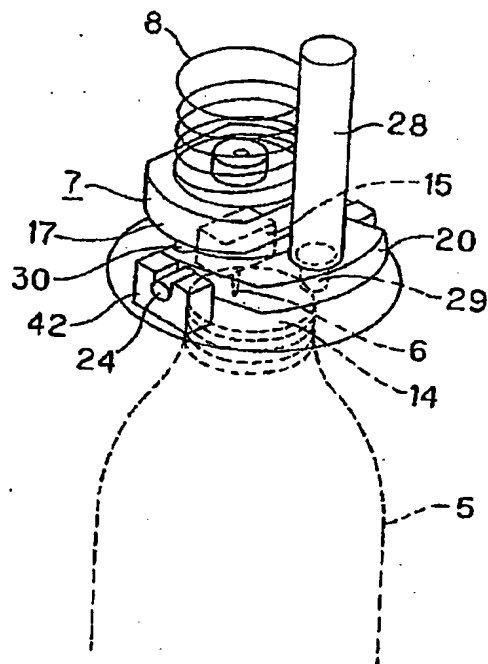
【図 3】



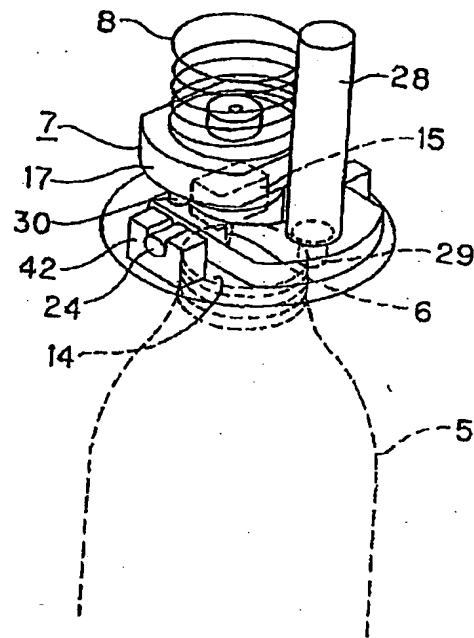
【図 4】



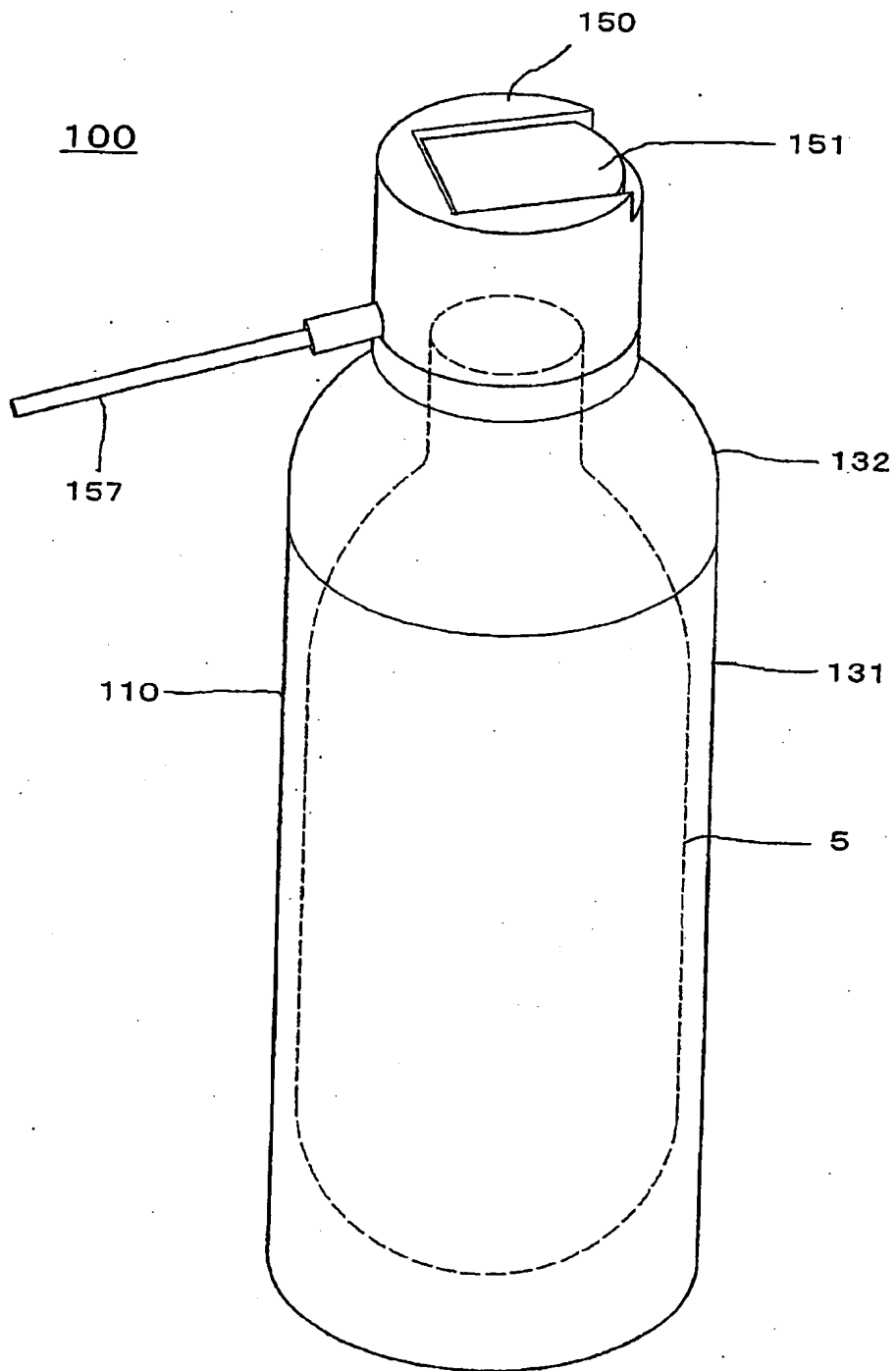
【図 5】



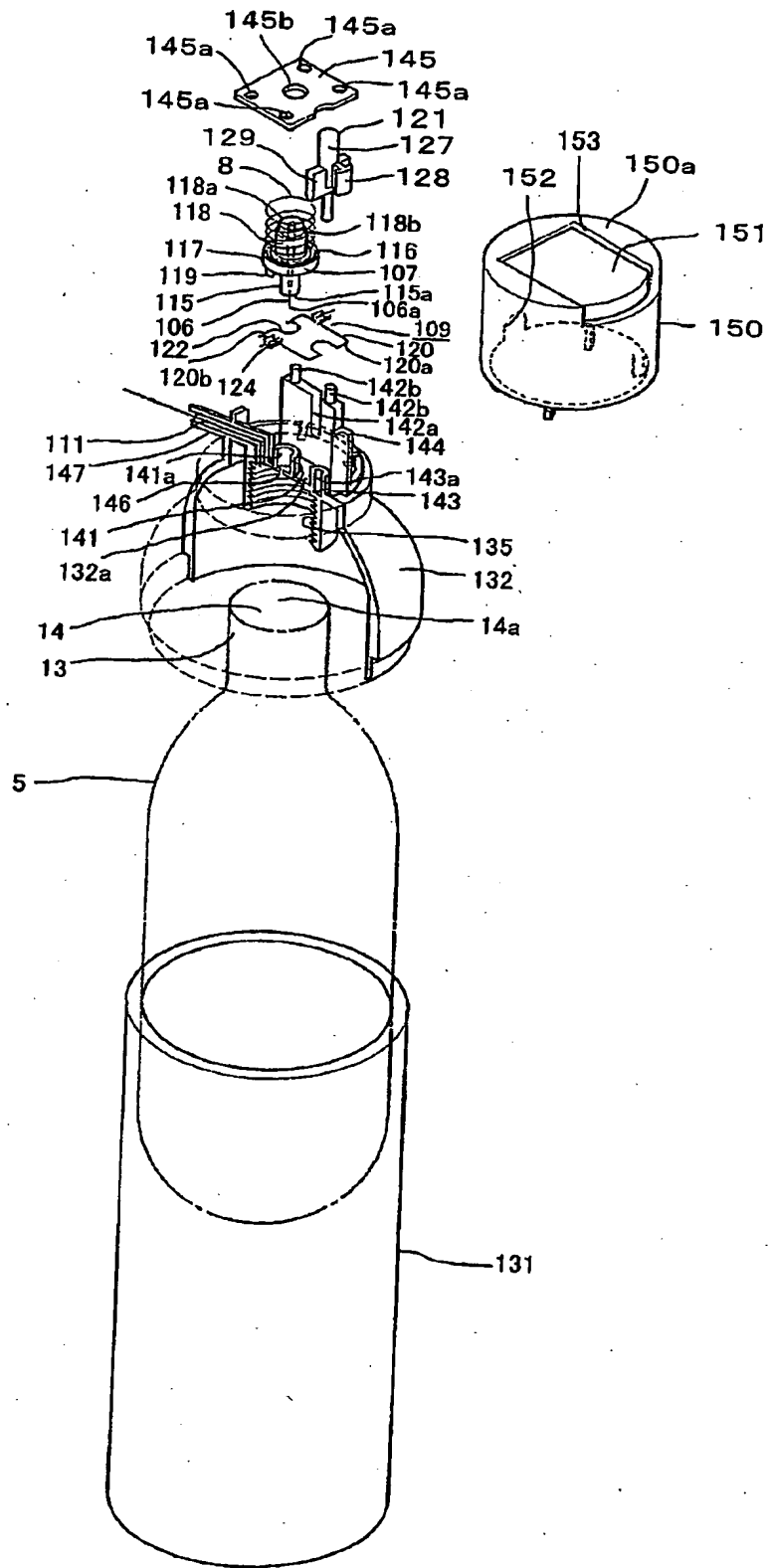
【図 6】



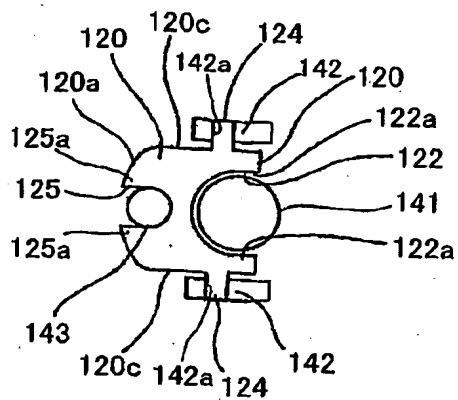
【図 7】



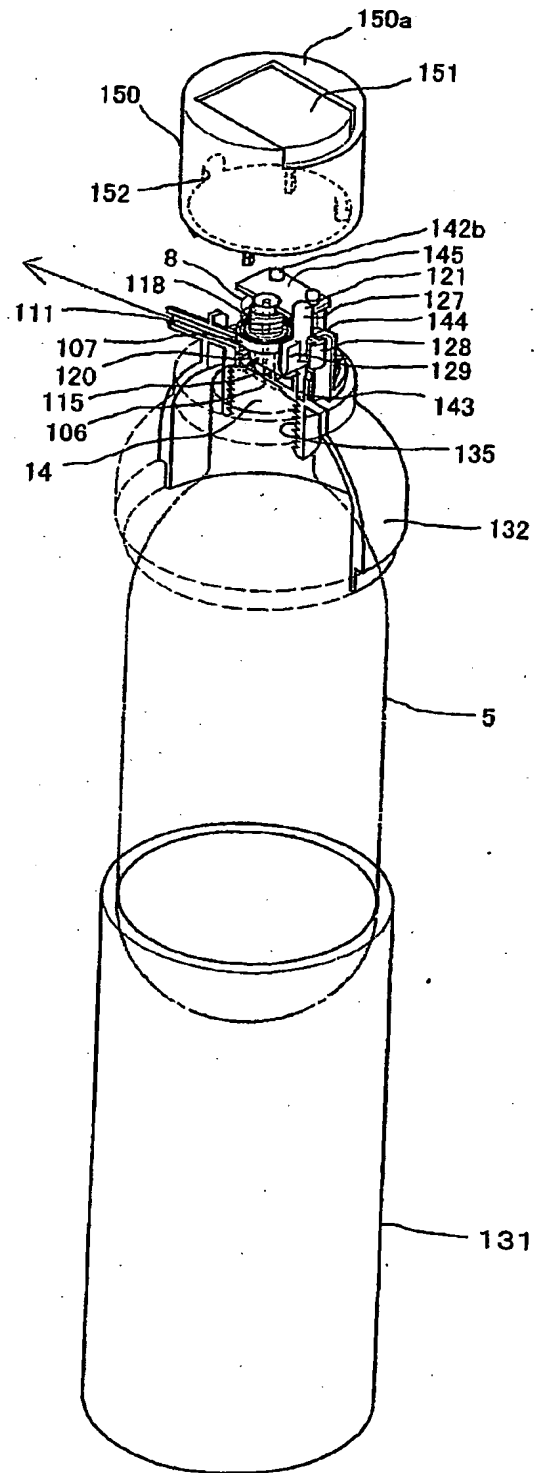
【図 8】



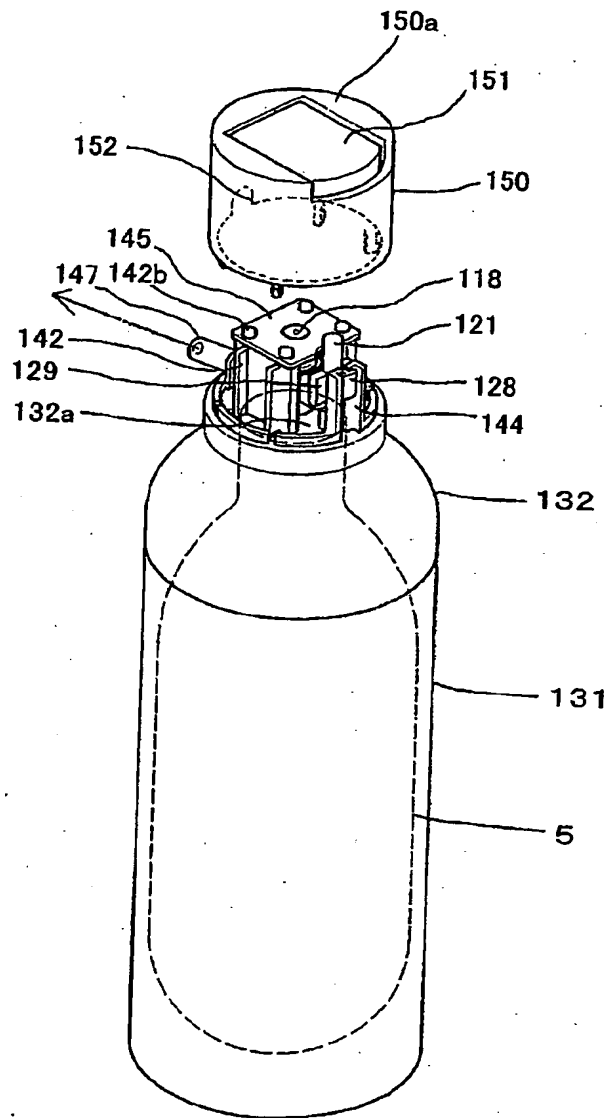
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】圧縮ガスの噴出制御を簡易な構成で実現したガス噴出装置を提供する。

【解決手段】蓋体14により開口部13が封止され圧縮ガスが充填されたボンベ5と、蓋体14に形成された穿孔14aに突き立てられることにより蓋体14を閉塞する尖鋭体6と、一端にボンベ5の蓋体14と対向して尖鋭体6を保持し蓋体14と接離可能に配設された保持体7と、保持体7をボンベ5の蓋体14側に付勢する付勢部材8と、保持体7を蓋体14と離間する方向に操作して尖鋭体6を穿孔14より引き抜きボンベ5を開放する操作部材9と、ボンベ5及び保持体7を収納するとともに、蓋体14の穿孔14aより噴出した圧縮ガスを外方へ導くガス流路11が設けられたハウジング10とを有する。

【選択図】図2

特願2004-339324

出願人履歴情報

識別番号

[501435129]

1. 変更年月日

2004年 2月 4日

[変更理由]

名称変更

住所変更

住 所
氏 名

東京都千代田区麹町四丁目1番3号セリエビル5階
株式会社メジャー通信